

# 白虎隊士飯沼貞吉の回生

飯沼一元著



## 「白虎隊生き残り」隊士 数奇な運命を孫が追う

ブイツーソリューション・1890円

数え16~17歳の少年達が戊辰戦争で新政府軍と戦った会津白虎隊。20人（実際は16人）が飯盛山で集団自刃した悲劇は、広く知られている。飯盛山でただ一人生き残ったのが飯沼貞吉だ。「死に損ない」の屈辱に耐えながら、通信省で黎明期の電信架設にかかわり、昭和6年に78歳で没した。本書は、直系の孫が血縁者ならではの大膽な推論を交えて、その後を追究したものだ。

宿敵・長州との奇縁

表紙になつてゐる絵には、異様な迫力がありますね。飯沼・飯沼貞吉が明治44年ごろ、出入りの絵師に描かせた白虎隊自刃の図です。世間には様々な白虎隊自刃の図が出回りましたが、槍にすがつて城を眺めているなど史実と違うものばかり。ただ一人、現場を知る祖父は我慢がならなかつたんでしょうね。それでこの絵を描かせたのだと思います。正規軍らしく服装は黒羅紗の制服で鉄砲を持ち、会津の「會」字の肩章を縫い付けてあり、16人が描かれています。

ご自分が白虎隊士の子孫だということは、飯塚 祖父の終の棲家となつた仙台市で私が生まれたとき、祖父はすでに他界していました。生き残りの白虎隊士だったことは知つていましたが、その話はタブー扱いで、家族で話題にすることはあります。

ご自分が白虎隊士の子孫だということは、飯塚 祖父の終の棲家となつた仙台市で私が生まれたとき、祖父はすでに他界していました。生き残りの白虎隊士だったことは知つていましたが、その話はタブー扱いで、家族で話題にすることはあります。

生き残ったのは情けないといふだけです。

ところが、長州の楨崎屋敷で貞吉の世話をしたという高見家の口伝が実にリアルで、現在も語り継がれています。さらに貞吉を養育したとされる長州藩士・楨崎頼三の玄孫の女性から「頼三が会津の貞吉母あてに密書を送った」という証言が飛び出しました。残念ながら、長州滞在説は事実と認めざるを得ません。

でも、調べるうちに長州へ行つた、行かないよりも、貞吉の生き方自体に興味を持つようになります。自刃失敗という取り返しのつかない心の傷を負い、満14歳で家族とも離ればなれになつて世の中に放り出された。彼はどうやつたのだろうかと。その希望が、その後従事することになる「電信」との出会いだのですね。

飯沼 「貞吉が長州に連れて行かれて、養育された」という論文が発表され、それをわざわざ私は送つてくれた人がいたのです。宿敵長州の世話をになるなんてどんなりませんでした。

飯沼 「貞吉について調べるようになつたのは、

生き残ったのは情けないといふ見方もありますが、私の生があるのは祖父のおかけです。蘇生後の貞吉は、電信（現在の電報）一筋で生き残った傍ら、白虎隊自刃の図・奮戦の図・手記などを残しました。「ならぬことはならぬ」を叩きこまれた白虎隊士としてきちんと筋を通して生きたのだと誇りに思つています。

飯沼 「貞吉が長州に連れて行かれて、養育された」という論文が発表され、それをわざわざ私は送つてくれた人がいたのです。宿敵長州の世話をになるなんてどんなりませんでした。

作業を語った新聞記事や手記が残され、それでいて、当時の様子を知ることができます。戦地に行つて、ち早く電信を引く。情報を持続するには今も昔も勝利の要であります。

当時の電信は欧米の専売特許でした。電信を自力で確立し普及させたのは、アジアでは日本だけです。私もNECで通信技術の研究をしてきたので思い入れがあります。その辺はぜひ書きかたつて、その辺はぜひ書きかたつた。

### 飯盛山自刃の真相

——この本で、もう一つ大きな検証テーマは、飯盛山での自刃の理由。いわゆる「落城誤認説」の否定ですね。

飯沼 白虎隊自刃の理由は、飯盛山から城下を見て、「お城が燃えている。落城した。殿の後を追っている。落城した。」などと激論が交わる」というのが通説になっています。実際は、鶴ヶ城は落城していないどころか、この後一

カ月にわたって新政府軍の猛攻に耐えました。私はずっと、この説に疑問を抱いていました。集団で死ぬことは簡単ではありません。そんな程度の理由で、血氣盛んな少年たちが一糸乱れず自刃するでしょうか。

——そこに平成20年、貞吉自筆の「白虎隊顛末記」が飯沼家で発見された

飯沼 紙を継ぎ足し、朱をたくさん入れた下書きの形で残されていました。自刃の場面は、次のように書かれています。

「敵軍に突入り玉碎しよう」「鶴ヶ城は炎上しているように見えるが、簡単に落ちるはずがない。敵を目指すべきだ」などと激論が交わされた。最後に「敵に捕らえられ屈辱を受ければ主君にも祖先にも申し訳ない。潔く自刃して武士

の本分を明らかにすべきだ」との結論に定まつた。

藩主・松平容保が藩命をかけて

京都守護職を受諾。天皇を警護し、朝廷に至誠を尽くした会津藩が、戊辰戦争では一転して朝敵とされ攻め込まれた。表立つて書かれてはいませんが、その理不尽に対する抗議を集団自刃という形で示したものと私は考えています。

「落城誤認説」は彼らを子供扱いしたお涙頂戴物語で、泉下の白虎隊士の立場になつて考へると、侮辱だと思えて許せません。あれは犬死にだと言う人もいるくらいですから。

——史実を調査し、白虎隊の「義」を伝えるため、平成22年に「白虎隊の会」を設立されたのですね。

飯沼 「武士の本分を明かすため」という自刃の理由を記した新たな説明板を、飯盛山に立てました。現在、会員は170人ほどです。

そのうち会津藩士の血縁者は17人。これまでに白虎隊ゆかりの人々の記念碑を山口、長崎などに建立し、講演会などを通じて白虎隊の「義」の普及に努めています。

### 「落城誤認説」を否定する

主張は、浸透しているのですか。飯沼 残念ながら、地元・会津ではなかなか受け入れられません。「白虎隊の会」は下関支部もあって、30人ほどの会員が活発に

活動しています。貞吉が長州で養育された縁もありますし、会津と長州の懸け橋になればと願つているのですが。

### 「落城誤認説」を否定する

——「落城誤認説」を否定する理由は、浸透しているのですか。

飯沼 残念ながら、地元・会津ではなかなか受け入れられません。「白虎隊の会」は下関支部もあって、30人ほどの会員が活発に

いいぬま・かずもと 昭和18年、仙台市生まれ。40年、東北大学工学部卒。45年、同大学で工学博士取得。同年、日本電気入社。研究所で画像処理を担当し、研究所長、本社理事支配人を兼任。平成5年、(株)ライステック設立し、米ぬか健康食品のベンチャ事業に携わる。22年4月、白虎隊の会(<http://byakko1868.web.fc2.com/>)設立。23年7月、海の会(<http://www.uminkokai.jp>)設立。

——「落城誤認説」を否定する理由は、浸透しているのですか。

飯沼 23年には、東日本大震災で被災した若者を支援するNPO法人「海の会」も設立されました。飯沼 会津藩は戊辰戦争で敗れた後、嚴寒不毛の斗南(青森県下北半島)に集団流罪となり、餓死者を出すような辛酸を舐めました。それでも臨時に藩校を開設

し、他藩へ留学させるなど、子弟の教育に力を注ぎました。震災の被害を見て、私も会津士魂を引き継ごうと考えたのです。

首都圏への進学や就職を目指す若者に、月額10万円までの経済的支援をしています。返還は求めません。現在、奨学生は6人。年会費5万円または50万円を納める会員が30人、ほかに300人くらいの方から寄付をいただきました。東北大学OBの研究室仲間に声を掛け始めたのですが、あつとう間に立ち上がりました。われわれ世代はお金を残しておいても役に立ちませんから、「後進の役に立つなら」との思いです。経済面だけでなく、進学・自己啓発・就職などでアドバイスできる知識や人脈もあります。この先十年くらいは頑張つて続けなければと思つています。

(聞き手／本誌 永井優子)